



サンバーンと末梢動脈疾患が増悪因子となった、熱中症により生じた coma blister の 1 例～地域からの発信

☆推薦文☆

意識不明で発見された高齢者の下腿に深い潰瘍を生じた例の原因について考察した論文です。難治性の潰瘍で外因性、内因性因子の関与が推定されました。本症例の関連する創傷治療や潰瘍、軟部組織感染症などの分野は皮膚科のみならず、救急、一般外科、整形外科、形成外科との境界領域であり、雑誌の選択をはじめ、よほどの情報発信できる症例でないと論文化は難しいところです。今回は、誰も見ていない状況で倒れて発見された患者をその臨床や経過からどのように考えて、理論を考えていくか、非常に考察力を要する作業でありましたが、審査員も興味をもって査読、教育的な批評をしていただいたと思っています。筆頭執筆者の堂福先生の人間としての誠実さとねばりが功を奏して、論文として実を結んだと喜んでいます。

自治医科大学さいたま医療センター皮膚科学 出光俊郎

宮崎大学医学部附属病院小児科 堂福美佳（宮崎県 35 期卒業）

宮崎県 35 期卒業 堂福美佳と申します。今回、CRST(Clinical Research Support Team in JMU)の支援を受けて執筆した症例報告『サンバーンと末梢動脈疾患が増悪因子となった、熱中症により生じた coma blister の 1 例』(A case of coma blister caused by heat stroke contributed to sunburn and peripheral arterial disease.)¹⁾が skin surgery 26(3)に採択されましたため、ご高名な先生方が掲載されている中誠に恐縮ではございますが、この場を借りてご報告とお礼を述べさせていただきます。



まずこの症例に出会った経緯をご報告いたします。私は、宮崎県の中山間地域にある美郷町南郷区という人口約 1900 名の地域の、唯一の医療機関である南郷診療所に勤務していました。診療所は医師 2 人(定着医 1 名, 自治医大派遣医師 1 名)体制で、他に週 1 日の頻度で糖尿病専門医や整形外科医による応援診療がありました。病床数は 19 床で平均 9-10 人程度の患者が入院しており、その疾患内訳は心不全、肺炎、骨折治療後のリハビリ目的入院などが主でした。本症例は真夏の 30℃を超える晴天の日に、畑で倒れていた女性が救急搬送されたことから始まりました。社会的事情(患者は、亡くなった夫の連れ子家族とともに同居しており、同居の家族から十分な支援を受けられなかったことや、最寄りの医療機関は自家用車で約 1 時間のところにあり同伴できる家族はさらに遠方に住んでいるためすぐに受診はできないことなど)や患者の状態を踏まえ、診療所で治療を開始しました。全身状態は比較的速やかに改善しましたが、基礎疾患である末梢動脈疾患や入院後の二次感染などが増悪因子となって左下腿に大きな皮膚潰瘍を発症しました。症例の詳細については Skin Surgery 26 巻 3 号の p. 125-131(2017 年)をご覧くださいと幸いです。山間地域の診療所で入院での治療継続をすることに医療者として大きな不安もあり、専門医(皮膚科)受診を勧めるにも前述の状況から紹介受診することもできず、もどかしさを感じた症例でもありました。時機をみて紹介できた紹介先の皮膚科医師、応援診療に来られる整形外科医師と協議を重ね、何とか治療に結び付けることができました。本症例の治療経過や発症の機序を考察するにあたり、これまで読んだことのない領域の医学論文を読み漁り、勉強していく中で、自分の診

療における反省点にも気づくことができました。そこで、今回の経過を全国の山間地域などで勤務し高齢者を多く診察すると思われる他の先生方に報告できる手はないかと考え、CRSTの先生に依頼したところ、さいたま医療センター 皮膚科 出光教授のご指導を受けることができるようになりました。一度さいたま医療センターに赴き直接ご教授いただいた後は、郵送・メールでやりとりしながらご指導いただきました。もともと小児科志望の私に、皮膚科の、特に本症例のように救急皮膚科や整形外科などもかかわってくる症例に関して指導するのは大変労力と時間を要する作業だったとお察しします。毎回のやりとりで、適切な論文の選別、論文作成の順序、論文作成の文章作成など1から教えていただきました。またご相談させていただいた時期が治療中でもあったため、随時写真をメールで送信し、治療に関する先生のリアルタイムのご意見もいただくことができました。

各県の事情によって異なることと思いますが、自治医大派遣医師は時に希望する科の診療ができない診療所・病院で勤務をしなければならないことがあります。そこには言葉では表せない葛藤があると思います。そのような場合でも、目の前の患者にしっかり目を向け、深めた知識を診療に還元し、さらに他の医師に情報提供することは特に派遣医師においては重要なことと思います。CRSTの先生方は各分野のプロフェッショナルの先生方であり、私達が派遣先の病院・診療所から何かを発売したい、論文化したいと思うときに、真っ先に手を差し伸べてくれる存在だと感じています。

最後になりましたが、論文化を完遂できたのは出光先生をはじめとするCRSTの先生方のご支援のおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

- 1) 堂福 美佳, 小田 裕次郎, 首藤敏秀, 塚本智大, 出光俊郎. サンバーンと末梢動脈疾患が増悪因子となった, 熱中症により生じた *coma blister* の一例. *Skin Surgery*: 26(3); 125-131, 2017.



Patient's photograph taken on day 16 after admission. Her left lower leg showed skin necrosis, with redness, swelling, and a burning sensation around it. The upper portion of the necrotic area had reduced sensation.



Patient's photograph taken on day 202 after admission shows complete healing of the skin ulcer.

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>